

「フジコー技報10号によせて」

福岡県知事
麻生 渡
Wataru Aso



戸畑で生まれ育った私にとって、フジコーさんと言えば、溶接をはじめ高度で確かな技術を持った企業という強い印象があります。現在では、オリジナルな技術開発によってCPCをはじめとする100を超す特許技術を持ち、独創的で画期的な製品を生み出し、「技術のFUJICO」として国内はもとより広く海外に事業展開されています。また、大学や研究機関等との共同研究を積極的に進められ、本県における産学官連携の推進に大きく貢献されているところです。フジコーさんの次世代を切り開くチャレンジ精神、技術開発や社会貢献等に対する真摯な取り組みに対し、心より敬意を表します。

さて、経済をはじめ様々な分野でグローバル化が急速に進展しています。

大競争時代の中で、これまでの国家単位だけでなく、これからは地域も世界的な競争の前面に立たされることとなります。

このような中、福岡県がアジアの交流拠点として今後も発展していくためには、成長著しいアジアに先んじた次世代のリーディング産業、すなわち、経済や雇用を牽引する研究開発・頭脳集約型の産業を育てていく必要があります。

このため、IT（情報通信技術）、環境技術、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーの分野で現在、重点的な取り組みを推進しています。

(IT)

まず、ITです。IT革命の進展により、時間・距離を超越し安価に情報交換ができる社会が形成されつつあります。

これに積極的に対応し、アジアをはじめ世界と競争できる環境を整備するため、福岡県では、自治体初の2.4ギガビットの高速大容量幹線「ふくおかギガビットハイウェイ」を昨年11月から運用開始しました。北九州市をはじめ県内9都市にアクセスポイントを設置し、専用回線で東京等と結び、企業・自治体等に広く無料で開放するという全国でもユニークな取り組みです。企業内や学校間のネットワーク構築、高精細画像を利用した遠隔医療、通信事業者によるインターネットサービスの提供、映像や経済記事のコンテンツ配信等幅広く利用され始めています。加えて、これを福岡と釜山間の5.4ギガビット海底ケーブル「日韓IT光コリドー」と結ぶことで、本県にアジアのインターネット結節点「ふくおかIX」を構築し、アジアにおけるITハブ拠点化を目指しています。

また、本年6月には、県内企業とアジア企業とを結ぶ国際電子商取引市場「eアジアマーケットプレイス福岡」の運用を開始しました。香港と台湾の貿易振興機関と既に提携を結んでおり、これにより、電腦商社に加盟する県内企業約1万3,000社にアジアの企業と電子取引を行う道が開けたこととなります。

半導体生産においては、台湾、韓国、中国等のアジア勢が台頭する中、シリコンアイランド九州は、より高度な分野に転換していく必要があります。このため、本県では大学、企業等におけるLSI設計開発の知的集積、産業集積を核に、新産業の創出を図り、システムLSI設計開発・供給の中核拠点を目指す「シリコンシーベルト構想」を推進していま

す。人材育成、研究開発支援、ベンチャー育成、知的所有権の交換等を行い、海を挟んだアジアのベルト地帯の中で連携と分業の関係を形成していきたいと考えています。

この一環として、昨年12月、「福岡システムLSIカレッジ」を開講しました。システムLSIの実務者の教育を目的とした全国初の取り組みとして、九州大学や九州工業大学をはじめとする18大学及び企業等の講師陣による高いレベルの講義が行われています。

(環境技術)

二番目は、環境技術です。資源を浪費し、大量の廃棄物を生み出してきた20世紀の社会経済システムから、資源循環型システムに転換していくことが求められています。このためには、リサイクルを可能にする技術と産業が不可欠です。本県では、北九州市と大牟田市がエコタウンの指定を受けており、北九州市では既にOA機器、自動車、家電等のリサイクル工場が稼働し始めるなど、我が国最先端の取り組みが進められています。大牟田市では、家庭から出たゴミをいったん固形燃料化して発電に使うRDF発電所が建設中です。

県では、昨年6月、産学官による共同研究体制でリサイクル技術と社会システムの開発を行い、その実践を支援する「リサイクル総合研究センター」を北九州市に設立しました。現在、有機系廃棄物の発泡化装置の開発等、様々な廃棄物の再資源化等に向けた取り組みを行っています。アジアの環境問題解決の一翼を担うためにも、本県に確固とした研究・産業基盤を築いていきたいと考えています。

(バイオテクノロジー)

三番目はバイオテクノロジーです。人ゲノム解析を契機に、ポストゲノムの時代に入り、バイオテクノロジーは、遺伝子治療をはじめとする医療、農業、食品、環境、化学等幅広い分野で革命的な変化をもたらし、市場規模やベンチャー企業の増大が期待されています。

本県で、九州大学や久留米大学等にバイオ関連研究の優れた頭脳資源を有するとともに、県工業技術

センター生物食品研究所等にも多様な研究シーズを有しています。また、県南部地域は、醸造業を中心とした発酵技術の伝統やそれを背景とするバイオ関連企業の集積やバイオベンチャーの台頭も見受けられるようになりました。この集積を基礎に、産学官による「バイオ産業拠点推進会議」を設立し、久留米地域を中心にバイオテクノロジー分野における一大産業集積拠点の形成を目指した「福岡バイオバレープロジェクト」を推進しています。

(ナノテクノロジー)

四番目はナノテクノロジー（超微細技術）です。ナノレベルのスケールで、分子や原子を操作してモノを製造するという技術の大革新が現在進んでいます。ナノテクノロジーの活用により、製造技術の飛躍的な高度化や新材料の開発による新産業の創出が期待されます。この技術を持つか持たないかで地域の将来が決定されることになりかねません。

本県は、有機・無機化学を中心にナノテクノロジーに関する大学等の高い頭脳集積を持ち、また、金属・セラミックス等の材料、半導体産業関連及び自動車関連の多様なものづくり産業の集積があります。今後、産学官によるナノの研究開発を進めていき、本県を世界をリードするナノテク産業の拠点としていきたいと考えています。本年7月に、産学官で研究開発・産業化の推進等を行う「福岡ナノテク推進会議」を設立したところです。

(福岡ベンチャーマーケット)

横断的なプロジェクトとして「ベンチャーマーケット」があります。ベンチャー企業の資金調達、販路開拓、技術提携等を支援するため、投資家などビジネスパートナーとのマッチングの場を提供する「フクオカベンチャーマーケット」を毎月開催しています。ベンチャー企業を育成する画期的な取り組みであり、これまでにアジア企業を含む600社以上がプレゼンテーションを行っています。世界で活躍するベンチャーが巣立つための基盤になりつつあります。

今年7月、福岡・北九州両都市圏を核とした「北部九州圏におけるアジア産業交流拠点の形成」が都

市再生本部の第4次都市再生プロジェクトに決定されました。

500万県民の英知と活力を結集し、今後とも福岡県が21世紀においてアジアの知的拠点として繁栄していくため、懸命に取り組んでまいります。皆

様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

フジコーさんには、今後も伝統の独創的な技術開発力に一層の磨きをかけられ、大きく飛躍されますとともに、信頼の技術をもって豊かな社会づくりに貢献されますことを心から祈念いたします。

【略 歴 書】

麻 生 渡

昭和14年5月15日生

【学歴】

昭和38年3月 京都大学 法学部 卒業

【職歴】

昭和38年4月 通商産業省入省
昭和53年5月 外務省在英日本国大使館参事官（在ロンドン）
昭和56年5月 通商産業省生活産業局紙業課長
昭和58年6月 通商政策局米州大洋州課長
昭和60年6月 産業政策局産業資金課長 兼 民間活力推進室長
昭和61年6月 大臣官房企画室長
昭和62年6月 大臣官房総務課長
昭和63年6月 通商政策局国際経済部長
平成元年7月 近畿通商産業局長
平成2年6月 通商政策局次長
平成3年6月 商務流通審議官
平成4年6月 特許庁長官
平成6年7月 財団法人中小企業総合研究機構顧問
平成7年4月 福岡県知事
平成11年4月 福岡県知事 再選（現在に至る）